

県中山間地域の栽培に適したリンゴ中生品種「錦秋」

【要約】「錦秋」は果皮が濃赤色で着色しやく、食味良好で飛騨地域において9月下旬～10月上旬に収穫できる中生の品種で、「千秋」の代替品種として適している。

中山間農業研究所 作物・果樹部

【連絡先】0577-73-2029

【背景・ねらい】

県内中山間地域のリンゴは、直売、朝市、宅配、共同出荷などの多面的な販売が行われており、早生種から晩生種まで様々な品種が組み合わせられている。しかし、中生の主力品種である「千秋」では着色不良を始め、小玉果やワックスの発生などの問題点が多く、より優れた品種の導入が求められている。

そこで、(国研)農研機構果樹茶業研究部門で育成された中生品種「錦秋」について、当県中山間地域への適応性を評価する。

【成果の内容・特徴】

- 1 収穫時期は9月下旬～10月上旬で「千秋」とほぼ同時期である(表1)。
- 2 樹姿は開張性で樹勢は中程度、短果枝の着生が少ない。収量性は「千秋」よりやや低いか同等で、後期落果の発生は同等である(表1)。
- 3 果実重は306gと「千秋」より大玉で、果皮は濃赤色で着色しやすい。果形は扁円で揃いが良く、果面のさび及びワックスの発生は少ない(表2、図1)。
- 4 果肉硬度は13.1ポンドとやや柔らかいが、肉質は良く果汁が多い。糖度がやや高く、酸度がやや低いため、甘みが強く食味は良好である(表2)。

【成果の活用・留意点】

- 1 「錦秋」は平成29年10月に品種登録出願が公表されており、許諾を締結した種苗会社等から購入できる。
- 2 以下は(国研)農研機構果樹茶業研究部門から情報提供された品種特性である。
 - 1) 交配組み合わせは「千秋」×4-4349(「つがる」×「いわかみ)」である。
 - 2) S遺伝子型はS₃S₇で、「つがる」とは交雑不和合性を示すが、「つがる」以外の主要品種とは交雑和合性である。
 - 3) 斑点落葉病には抵抗性がある。

【具体的データ】

表1 「錦秋」の生育特性（平成24年・樹齢4年生～平成30年・樹齢10年生の平均）

品種	開花期(月/日)		収穫期(月/日)			樹姿	樹勢	短果枝の着生	収量(kg/樹)		後期落果
	始期	盛期	始期	盛期	終期				10年生	累積収量	
錦秋	5/3	5/7	9/26	10/2	10/11	開張	中	少	19.5	71.0	少～中
千秋	5/3	5/6	9/27	10/2	10/10	中間	ヤ強	少～中	20.1	83.4	中

※栽植距離:4.0×2.0m 樹形:細型紡錘形

表2 「錦秋」の果実特性（平成24年・樹齢4年生～平成30年・樹齢10年生の平均）

品種	果実重(g)	果皮着色	果形	揃い	サビ程度	果肉硬度(lbs)	糖度(Brix%)	酸度(g/100ml)	肉質	果汁	ワックス
錦秋	306	多～極多	扁円	中～良	少	13.1	15.8	0.30	中～良	中～ヤ多	少
千秋	291	中	円錐	中	少	13.5	15.5	0.42	中～良	中	中

※栽植距離:4.0×2.0m 樹形:細型紡錘形



図1 「錦秋」の結実状況

研究課題名：飛騨地域に適したモモ、リンゴ等の品種選定と栽培技術の開発（平成21～30年度）
研究担当者：安江隆浩